



タイ北西部の無国籍の子どもたちの抱える問題

—タイ・ミャンマー国境の学校の現場から—

やぎさわ かつまさ
八木沢 克昌

●公益社団法人シャンティ国際ボランティア会・アジア地域ディレクター

今から3年前の2018年7月、世界中から注目を集めたタイ北部タムルアン洞窟からの少年ら13人の奇跡的な救出劇。その内4人が無国籍だったためにタイの無国籍の問題が大きな関心を集めた。タイ政府は少なくともタイ国内に約50万人の無国籍者がいるとみている。

タイ北西部のターク県ターソンヤン郡は、洞窟の救出劇となったタイ北部と並び少数民族などが多く住む地域として知られている。ミャンマー国境の街、メソトから北へ急峻な山道を1時間半。ターソンヤン郡を流れるムーイ川の対岸はミャンマーのカレン州がある。

郡の南部の山中には、メラ難民キャンプ(34,597人 2019年UNHCR)があり、カレン族を中心にミャンマーから来た難民が暮らす。ターソンヤン郡の人口9万人のうち約2万人が無国籍。住民の8割が少数民族のカレン族で様々な問題を抱えている。

カレン族は、タイの北部と北西部、ミャンマー東部のカレン州や南部を中心に住む。タイの少数民族の中でも最も人口が多い。タイでは山岳地帯の森を開墾した狭い土地で農業を中心に生計を立てているが現金収入が少なく貧困の中に身を置く人々が多い。両親の多くはタイ国内に暮らしているが、子どもの出生や国籍を証明する「住民登録票」がない。病院ではなく、きちんとした住所のない山の中で出産し、タイの役所に出生届を出していなかったために「出生証明書」すらないためだ。

無国籍は、タイ政府等の公的奨学金の対象外になる。大学への進学は可能だが、大学卒業までに国籍を取得しないと学位を取得できない。そのため公務員、特に教師等の安定した仕事に就く機会が閉ざされる場合が多い。

15才以上になっても、タイ国民として携行が義務付けられている国民としての証の「国民携行証」がないために他郡や他県への移動が制限される。外国へ渡航するための旅券の申請もできない。

各学校では、国籍のない生徒たちに国籍取得の支援をしているが、手続きは困難を極めている。両親がミャンマー国内生まれ等の場合は、親子の関係を証明する書類がなければDNA鑑定等の提出が必要となり、国籍取得までには複雑かつ長い時間を必要とするという。

国境の街、メソトから車で約3時間北上したところにあるターソンヤン郡メーサリット・ルアン・ウイタヤー校。幼稚園から高校3年まで2,489人が学ぶ。学校は、7校の分校から構成されている。生徒の99パーセントはカレン族。教師は136人おり、タイの王室プロジェクトから支援されており生徒と教師の寮が学内にある。村の外れの国境をムーイ川が流れており、対岸はミャンマー。村の人口の大半はカレン族。学校には無国籍の生徒が740人と実に生徒の29パーセントを占めている。

筆者が所属するシャンティ国際ボランティア会が支援するタイのシーカー・アジア財団は、この学校の中学生と高校生52人に奨学金を支援してい



ミャンマー国境の村にある学校
メーサリット・ルアン・ウイタヤー校の
ヌッチャナートさん（高校3年生）
（財団による奨学生の1人で、生徒会長に選ばれている）

る。

奨学生の一人ヌッチャナートさんは、高校3年生の女子高校生。成績が抜群かつ活動的なこともあり生徒会長に選ばれている。生まれたのは、村を流れるムーイ川の対岸のミャンマーのカレン州。現在は学校の敷地の中にある学生寮に暮らしている。両親はカレン州で農業を営み、今もミャンマーで暮らしている。ミャンマーで生まれて、幼少の時に親戚を頼ってタイ側に移住してタイの小学校へ入学して現在に至る。

ヌッチャナートさんの将来の夢は、タイで学校の教師になること。しかし、彼女には苗字がない。苗字がないということは、無国籍をも意味している。無国籍では、タイの公立学校の教師にはなれない。政府系の奨学金の対象から除外される他にも病院の治療対象からも除外。さらに無国籍ということに対しての差別等もある。何よりタイ国内では安定した仕事に就くことが困難で貧困の再生産の中に陥ることが危惧される。

同校の高校3年生の教室の入り口には、男子4名、女子22名と書いてある。男子は中学3年を終わると大学進学を諦めて職業訓練校へと進学するという。男女ともに学校の制服には、苗字なしの名前だけの刺繍。

この学校に14年間勤務し敷地内の教員寮で暮らして無国籍の生徒たちの相談役となっているメーオ（愛称）先生は、「現在のタイの教育制度では無国籍の生徒がタイの公立学校の教師になるのは残念ながら極めて困難。しかし、学校で学ぶ意味と

教育の機会は極めて大切」と語る。「シーカー・アジア財団の奨学金は、タイ政府の公的奨学金の対象とならない無国籍の生徒たちの大きな希望なのです」と力を込めた。

タイは近年のメコン地域の経済を牽引している一方で、深刻な少子高齢化問題を抱えて慢性的な労働者不足に悩んでいる。地方にはめぼしい産業もなく雇用が少ないミャンマーやカンボジア、ラオス等の国々。経済の格差は、移民労働者を生み出して、相互に依存している格好だ。タイ政府に登録されている移民労働者は全体で290万人。未登録者を含めると500万人を超える人数が陸続きの三カ国からの移民労働者と考えられている。

無国籍の子どもたちは、多くの場合は国や行政の資料はもちろん国連の統計にも存在していない。「命として存在しているが、人間として存在していない」という状態だといえる。民族としての尊厳や文化的なアイデンティティの喪失の危機にも繋がる。

無国籍は、国境を超えた深刻な人身売買や貧困の再生産、連鎖につながることは明らかだ。世界中で深刻な移民問題や難民問題とも深く繋がる問題だ。無国籍の問題は、人間の尊厳そのもの。国連のSDGs（持続可能な開発目標）の基本理念「誰一人取り残さない」という基本理念そのものだ。全ての無国籍の子どもたちに、質の高い教育の機会が保障されて早期の国籍取得が実現することを願わずにはられない。